

令和2年度第1回舞鶴市子ども・若者支援会議 議事録（概要）

日時：令和2年7月10日（金）

午後1時30分～午後3時00分

場所：舞鶴市役所 中会議室（別館5階）

- 1 出席者・欠席者：別添、委員名簿のとおり
事務局：舞鶴市健康・子ども部、教育委員会教育振興部

2 議事等

- (1) 開会
(2) 各委員の紹介、新委員への委嘱状交付
(3) 協議事項
①幼稚園の認定こども園への移行について
②子育て交流施設「あそびあむ」について
③その他
(4) 報告事項
①夢・未来・希望輝く「舞鶴っ子」育成プラン（第1期）に基づく令和元年度
子ども・子育て支援等各事業実績について
②令和2年度子ども・子育て支援等の主要事業の概要について
③その他
(5) 閉会

【質疑・意見等】

(3)協議事項

①幼稚園の認定こども園への移行について

資料に基づき、事務局より説明

(会長)

特に意見、質問等ないようであれば、承認いただいたということでよろしいか。
では、協議事項①については、これで承認とさせていただきます。

②子育て交流施設「あそびあむ」について

資料に基づき、事務局より説明

(委員)

国と府の財源が入ってくるかわからない中で、市の財政も厳しい。あそびあむの有料化については致し方ないと感じる。料金の目安等、どのように考えておられるのかお聞きしたい。

(事務局)

あそびあむの検討内容については大きく2つに分かれており、次の時代の中での持続可能な運営ということで説明させていただいた。財源については、子ども・子育て支援交付金というものはあるが、今後どのような方向になるか分からない。委員の言われた財源はそのあとに提案させていただきたい。

(会長)

現在はあそびあむの今後の展開について、各委員に意見をいただきたい、ということか。

(委員)

コロナもあり、あそびあむに行くのが怖いという保護者もおられる。具体的な対策は考えておられるか。

(事務局)

休館もしていたが現在は開館しており、1回につき80人までの入場制限を設けている。あそびのコーナーの間隔をあける、換気や消毒の対策を行っている。また、市外利用者はお断りしており、市内在住者のみ利用いただいている。

(委員)

世代をつなぐ「どこでもあそびあむシリーズ」、もし実現出来たら本当に良いと思う。なかなか舞鶴を促せない中、色々なあそびを通して、幼児からお年寄りまで時代をつなぐ取り組みである。人との付き合いが希薄化してきている中、交流や付き合いを大切にしながら、乳幼児期、学童期の大切な時期に充実した教育ができるように保障していただき、循環型多世代交流を実現させていけたら良いと思う。

(委員)

資料2の2ページ、「あそびあむを核とした子育て支援～」の部分で、あそびあむはあそびに特化した、あそびから発信していくものと考えているが、「子育て支援」という言葉で表記してしまうと、養護や発達支援、ケアの支援やまちづくりが全部入ってくるのでぼんやりする。説明について言わんとすることは分かるが。

それらを覚悟した上でⅢのリーディングプロジェクトにつないでいく、プロジェクトの部分に関しては素晴らしいと思う。ⅡからⅢへ実現していくところについては、それが出来るコーディネーターの存在が必要である。あそびあむがアウトリーチで地域へ出ていくため、よりあそびに特化したものをまちに出していく中で、さらに外へ出ていくためのコーディネーター、繋がっていくためのマンパワーや協力者が必要になってくるのではないかと思うが、その部分についてどのように考えておられるのか。

(事務局)

今からそういった方々を見つけていきながらやっていきたいという段階である。我々も思考錯誤して進めていく中で、ご協力いただければと思う。

(会長)

コーディネーターの養成については、あそびあむに限らず、求められている課題と感じる。達成していくための1つの方法の中にこう言った意見を取り入れていただけたらと思う。

(委員)

世代をつなぐ多世代交流の中で、あそびあむが出来る前の議論に参加させてもらった。その時には、シニア世代の方も利用できて、若い世代の悩みを聞いて知恵袋のような役割を期待していたが、実際はシニアの利用も低く、全く交流がないと感じる。あそびあむの中でシニア世代を取り込んで何かが出来ると良い。

もう1つは、図の中に中学生の職場体験があがっているが、とても良いことと思う。小さい子供と関わることによって、将来につながりが出てくる。

(委員)

「多世代が集う」というコンセプトで建てたが、メインユーザーの子育て世帯しか呼び込めない施設である、ということ認め、欠けている世代をあそびあむに呼び込むことを目的とするのか、単に人に集まってほしいのか？色々つながりはあるので動員をかければ人は集まると思うが、行きたくなる施設になってほしい。

提案されている地域は農村地や海などである。市街地ではない高齢化率の高い地域にフィールドを伸ばして、うまくその地域の方と出会っていれば、おのずと手薄であるシニアの方々と出会っていくしかけになる。そのようにしようとするれば、コーディネーターが非常に大事になってくる。

あそびあむがどうなっていけばよいかを話し合う中で、今欠けている世代を呼び込む事を考えるのか、今来ている若い世代は維持しつつ、欠けている世代を別のフィールドでしかけていくのか、もう少し聞かせてほしい。

(事務局)

設立の際にワークショップを行い、多世代が交流できる施設とコンセプトにも入っているところである。

おじいちゃん、おばあちゃんプログラムなど、単発で企画はするものの、持続性がない。今回、外に出ていき、自然な形で交流につなげていければ。それを通じてあそびあむにも来ていただければと思っている。

(委員)

あそびあむは舞鶴市内で子育てをされている方が交流できる、親と子供が遊べる施設だと認識している。

「子育て交流施設」とあると、子育てが終わった世代から見ると、関係ないと思ってしまう。パンフレットにもある「大人が楽しいと～」とあるが、この大人とはどういう対象なのか。あくまでも子育て中の大人なのか、いち大人が入って行ける施設なのか、まずそこが大きな関門では。

また、あそびあむの位置づけが市民に理解されていないのではないか。

(委員)

ママカフェを主催している。資料に出てこないのは残念だが、こういったことにもつながれば、1つの資源になるのではないか。

ママカフェでのママたちの想い・希望は、自分自身も楽しみたい。子供を誰かに見てもらってコーラスをしたり、ヨガをしたり。昔だとわがままだと言われるかもしれないが、昼間ワンオペで子供をずっと見ていることが苦痛である。雨が降っているとあそびあむは非常に良い施設だが、結局母が見て、向き合っている状態。そうではなく、ちょっと子供を置いて、自分自身が解放されて、短い時間でもリラックスできる。もしくは、向き合うのではなく、同じ方向を向いて紙芝居や劇を見る。そういう時間を求めている。なので、そういった場所が出来れば良いと思う。

説明いただいたあそびあむのビジョンはすごく良いと思う。色々な小さい団体があるので、それを上手に活用

するコーディネーターをとっていただければ嬉しい。

ママカフェを開催する中で、転勤族で車がなく、バスで来ていたり、ご主人が休みの時だけ参加できる方などがおられる。中学校区単位で、ボランティアなどでおばあちゃんに子供を見てもらい、お母さんはこちらに集中する、そういった場所を非常に求めておられる。昔でいう、おばあちゃん達が子供をちょっとあやしてくれるような、そういう場所を作れたら良い。そういったコーディネーターをしてくださると嬉しい。今後希望している。

(委員)

今出ていた、巻き込む話は以前からあったが、高齢者との交流が出来ない理由は何か？企画が単発になるのは原因があるはず。あそびあむでも出来ていないのに、外に出ても出来ないという事になりかねない。外に出て交流するのであれば、あそびあむに高齢者を連れてきて反応を起こすほうがよいのでは。なぜそれが出来ないのか。

(事務局)

交流施設ということで、多世代の交流も含めて努力をしてきたが、今回、次の展開として考える中で、地域におられる人とのつながりが大切だと感じる。高齢者との交流が出来ない原因としては明確に申し上げられないが、この場でいただいた意見を含めて、よりよい施設になるよう努力してまいりたい。

(会長)

提案の図案を見た時、舞鶴にこれだけ自然の資源があることを再認識した。

あそびあむが出来て5年となるが、周りの方々の期待やニーズに応えることは無理ではないかと感じつつ、それでも応えてほしい、というのが意見である。あそびあむをこれからどのように育てていくか。今いただいた意見を検討しながら、新たなあそびあむの創造につなげていただきたい。

コーディネーターが動くことによって、舞鶴の子育ての資源が財産として発信されていく。子育てされている方が舞鶴に来たいと思える電波を育てていただきたい。5年、10年、もっとかかるかもしれないし、時代によってニーズも異なる。それに応えるのは至難の業かもしれないが、委員からの貴重な意見をふまえ、今後ともよろしくをお願いしたい。

(委員)

コーディネーターとは具体的にどのような方なのか。

(事務局)

決定した事業や市の施策ではなく、「コーディネーターを活用していかれてはどうか」という意見としていただいたものであるため、説明についてはご理解いただきたい。

②子育て交流施設「あそびあむ」について

引き続き資料に基づき、事務局より説明

(委員)

先ほども有料化に伴う利用料金について意見があがっていたが、その件に関してはどうか。

(事務局)

あそびあむが新たな展開をしていく上で、どのような手段があるかということで3つ挙げている。ここで具体的にいくらの利用料をとる、ではなく、今後市で検討していく中で、この3つ以外で他の方法があれば、意見・アドバイスを頂戴したい。

(委員)

あそびあむは舞鶴市直営の施設として市が運営する方針のもとで展開していく、その上で今後の事を考える、ということでしょうか。

(事務局)

一定の質を確保していかなければいけない。今現在は委託や指定管理に出すことは考えていない。

(委員)

今うまくいっていないのであれば委託に出した方がよいのでは。

(事務局)

市の子育ての事業には法人や、委託に出しているものもあるが、直営で行っているものもある。今明確にお答えできないが、今後そういった場面があればこの会議で諮らせていただく。

(委員)

あそびあむが出来て5年、使えば劣化もする。コロナもあるが、市の財政を考えると、ネーミングライツなどの財源確保もよいと思うが、一番身近なところで利用者の方には申し訳ないが、施設利用の有料化の時期に来ているのではと思う。

(委員)

たくさんの方がおられるが、今コロナ禍で市内の方限定ということだが、普段の市外利用者はどの程度おられるのか。

(事務局)

平成30年度の実績で言わせていただくと、全体の27.3%が市外利用者となっている。土日だと3割。年々増えている状況である。

(委員)

あそびあむは私自身まだ利用をしたことがないが、非常に良い施設だという話はたくさん耳に入っている。

昨年の第3四半期頃まではわりと良い景気だったが、第4四半期に入りコロナの影響が出てからは非常に落ち込んでいる。4月～6月は相当悪化する見通しになっていたが、実際は予測より悪かった。7月はさらに悪い状況になっている。この先の見通しが持てないことと、人手不足について調整する時期になっている。

協賛金やネーミングライツなど、よい事だと思うが今は非常に厳しい状況である。

(委員)

市内、市外問わず有料化にするのは良いと思う。市内、市外の差をつけないほうが良いと思うのは、この事業自体が国の交付金事業であり、国、府から3分の2支えていただいている事業だということ。舞鶴市民のためだけと謳うのはどうかと考えるからである。

宮津の「にっこりあ」では、コロナで徐々に開けていかれる中でも宮津市民だけではなく、時間を限ってではあるが近隣市の方にも開放している。条件に差をつけるのは慎重に審議・検討するべきと思う。

舞鶴市は「子育て環境日本一」を目指しているが、広く子育てを銘打っていく部分のイメージにどのように響くのか心配である。移住・定住者を迎えるにあたりイメージは大切だと思う。

有料化の細かい内容は今話し合う事ではないが、あそびあむがどうなっていけばよいか展望を聞かせてもらい、実現に向かっていくのであれば、財源がどれだけ必要で、事業費の中でいくら足りる・足りないを見せていただかないと求める数字が分からない。まずはあそびあむの中身を実現できるようにするためのビジョンを明確に示してもらい、審議が必要であれば皆で話し合いをするべきであると感じる。

(委員)

利用料で差をつけるべきではないという話が出たが、市税を3分の1使っている。府外から来られた方に施設を利用してもらうにあたり、その方に一切負担をかけないのかというと不公平になる。そこに差をつけるのはあっても良いのではないか。国や府の交付金というのは、そういう意味で出されているのではないと思う。県や府で差がつくのはおかしいことではないと思う。

(事務局)

いただいた意見を踏まえて慎重に検討させていただく。

(会長)

有料化の問題は他府県でも同じようなことがあるかと思う。情報は色々持つておられると思うので、具体的に示していただけたら協議させていただく。

他に意見はあるか。

今いただいた意見を参考として、今後の在り方を検討していただきたい。

(4)報告事項

①夢・未来・希望輝く「舞鶴っ子」育成プラン(第1期)に基づく令和元年度子ども・子育て支援等各事業実績について

②令和2年度子ども・子育て支援等の主要事業の概要について

資料に基づき、事務局より説明

(委員)

昨年、今年合わせて11カ園の認定こども園への移行があり、急速に増えている。また、昨年10月からの無償化により、幼稚園での長時間保育をお世話になっているところである。

在籍児童数の一覧表にもある、定員3,700名で2,500名の在籍に関して、保育士確保あるいは処遇改善について、予算の組み立てをお世話になっている。事実上、保育士も幼稚園教諭の確保も難しい。委託事業費、給付費等をいただいている中で、約75%が人件費となっている。残りは給食費や、子供達の画用紙代等である。人件費

を10%増やしてしまうと、画用紙が買えなくなってしまう。非常に厳しい状況である。処遇改善の予算化をしていただき、なかなか保育士確保が出来ないところについてもクリアしていきたいと考えている。

昭和20年代からこの制度が始まっているが、今年初めて待機児童が出てしまい、大変な状況にある中で、目の前の子供達をしっかりと見守っていかなければならない。よりよい見守りが出来るよう、皆さまにもご理解いただきたい。

(委員)

資料の数字についてだが、あそびあむの事業費で、資料2では令和元年度は2,375万円となっているが、資料3の決算額では運営経費で629万円、資料4だとまた大きい数字で2,720万円となっている。おそらく人件費などと思うが、そのあたりもあらかじめふまえて説明いただけたらと思う。すごい金額の事業だと思っていたのに、資料3で見ると数字が小さい。説明が必要かと思う。

(事務局)

次年度以降、もっと分かりやすい形で記載させていただきたい。

数字としては、人件費を含めたものと、人件費を除いた運営経費となっている。

(委員)

目的別と性質別の歳出の違いか。

(事務局)

事業の中で人件費が経費全体に入っていたり、区分の仕方が役所の事務上色々あり、分かりにくくなっており申し訳ない。

金額的にはランニングコストが700万円ほどで、残りは人件費となっている。

(会長)

本日はたくさんの意見をいただいた。質問等あったが、各事業について着実に進めていただくようお願いする。

③その他

(事務局)

最後に、待機児童について報告させていただく。令和2年4月時点において14名の待機児童が発生している。要因としては保育士不足であり、保育ニーズが高い中で新規採用者確保以上に離職者が増え、現体制の維持が出来なくなった。その対策として、潜在保育士を対象とし、就業相談窓口、処遇改善を掲げ、保育士確保及び離職防止を進め、1日も早く待機児童解消に努めてまいりたいと考えている。

(会長)

保育士不足は深刻な問題である。是非、地域の方、知り合いの方に声を掛けていただき、協力をお願いしたい。

以上を持ち、会議を終了させていただく。委員の皆様、ありがとうございました。

以上